

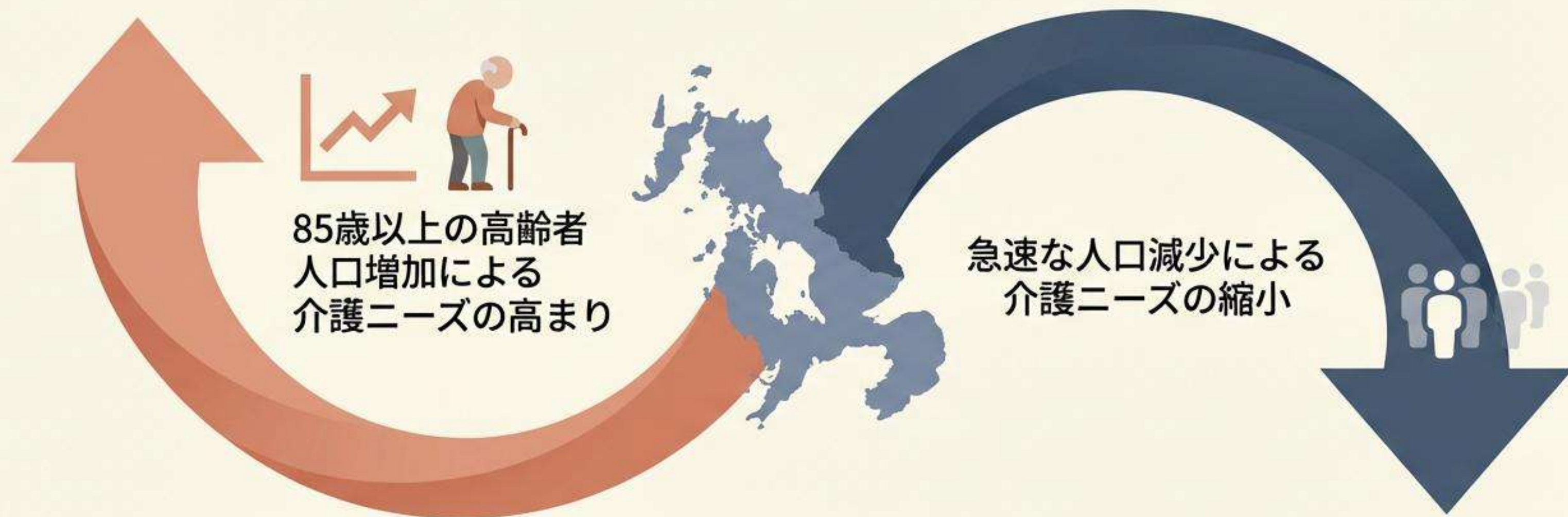
# ケアプランデータ連携が 拓く、長崎県の新しい 介護のかたち

ケアプランデータ連携システム  
導入モデル事業報告



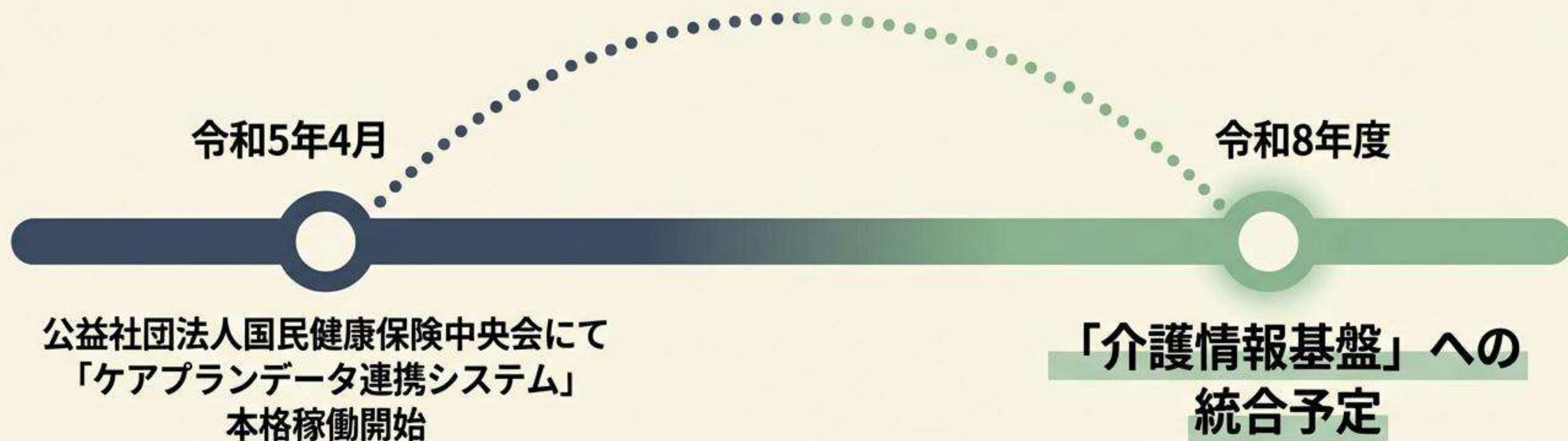
長崎県介護支援専門員協会

長崎県が直面する二極化する人口動態は、これまでの業務形態を困難にしています。



介護人材の確保と安定的なサービス継続には、生産性の向上による業務の効率化が不可欠です。

令和8年度の「介護情報基盤」統合を見据え、ケアプランデータ連携システムが生産性向上の鍵となります。



テクノロジーの活用は選択肢ではなく、  
次世代のスタンダードへの準備です。

業務負担軽減とネットワーク形成を目指し、県内3つの特性の異なる地域で実証モデルを構築しました。



**諫早市**

都市部・規模拡大モデル



**東彼杵町**

ルーラル（中山間）地域モデル



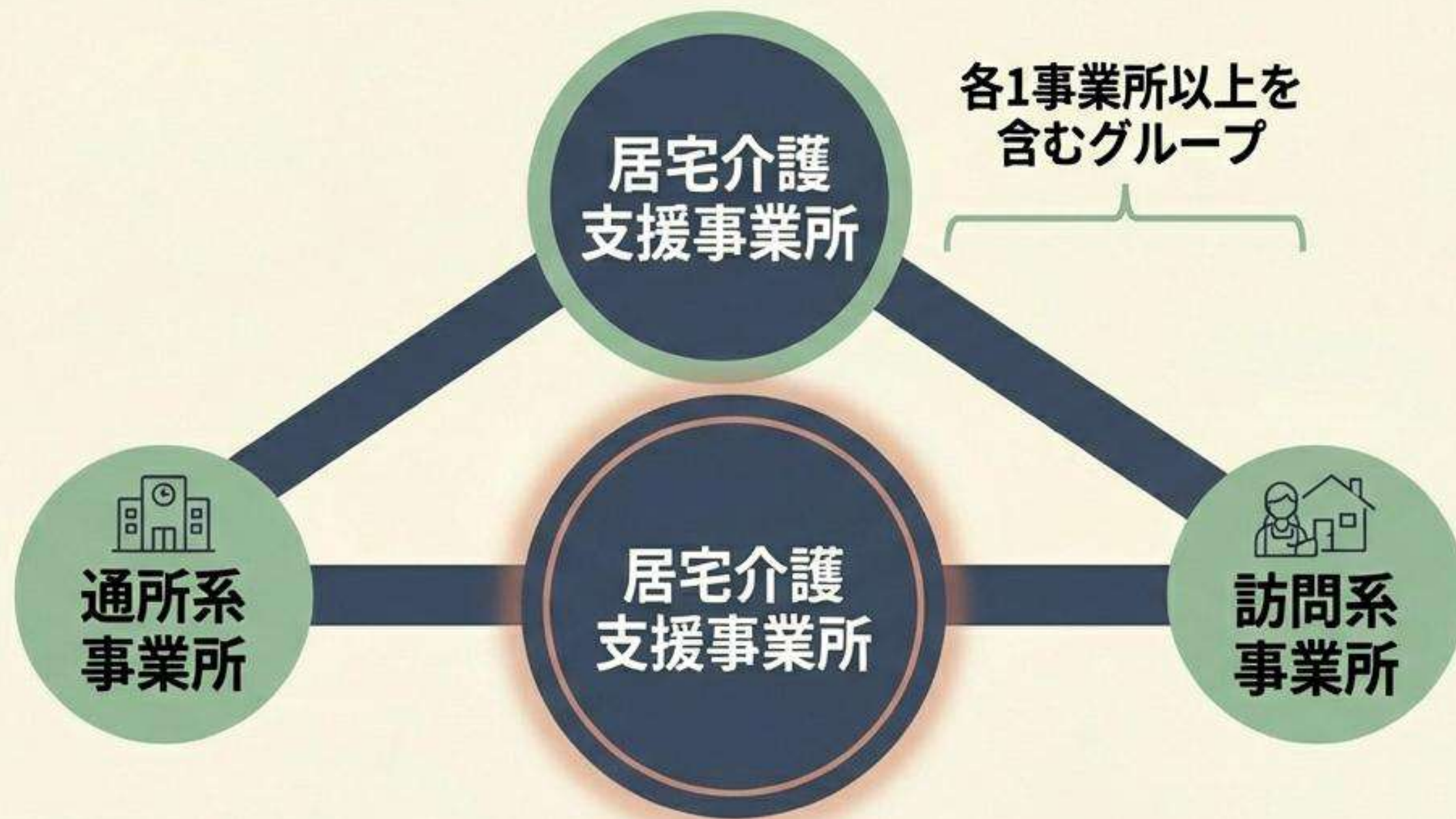
**五島市**

離島地域モデル

目的：居宅介護支援事業所と居宅サービス事業所間におけるデータ連携を促進し、生産性向上を図る。

実施期間：令和7年8月1日～令和8年3月14日

地域の居宅介護支援事業所と複数のサービス事業所をつなぎ、計33事業所がモデル事業に参加しました。



諫早市

14事業所










五島市

9事業所

東彼杵町

9事業所

8ヶ月間にわたり、「データ計測」「手厚い研修」「現場のフィードバック」を反復しながら導入を支援しました。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【計測 Phase】	導入前データ計測 (8月～11月)							
			導入後データ計測 (10月～12月)					
【支援 Phase】	 導入説明会 (8/18)	 マニュアル・ 動画作成 (9/19)	 諫早市体験会 (55名参加) (9/29)		 諫早市体験会 (22名参加) (12/17)			
【協議 Phase】			 市別打合せ (10/21)	 3市合同 打合せ会 (11/17)		 市別打合せ (1月)	 WEB意見集約 (2/18)	 実績報告会 (3/14)

# 異なる環境下でシステム導入に挑戦した、 3地域の現場のリアルな声をお届けします。



**離島地域の挑戦**  
太田孝幸様（五島市）



**ICT音痴からの脱却**  
山下友浩様（東彼杵町）



**規模拡大と日常化**  
橋口英俊様（諫早市）



成功だけでなく、導入時の不安や直面した課題も包み隠さず共有します。

# 【五島市】紙やFAXから脱却したことで、利用者支援という「本来の業務」に充てる時間を確保できました。

## Before



転記作業・誤送信・  
郵送の手間

## After



電子データ連携により  
業務が劇的に迅速化

## 導入効果と今後の展望

### 効果と評価

- 従来FAXや郵送等で行っていた提供票等のやり取りが電子データ連携となり、転記作業の削減、確認業務の迅速化、誤送信の防止といった効果を確認。
- 特にデータ形式による作業の効率化およびペーパーレス化に資すると評価。利用者支援に充てる時間の確保という副次的効果も。
- 介護人材確保が困難な離島地域において、本システム導入による生産性向上は安定的なサービス提供につながる。

### 課題と今後の対応

- 導入作業や使用ソフト間の相性など、運用面での課題も。小規模事業所では、人的・時間的余裕不足や操作不安が阻害要因の傾向。
- 今後は、体験会の開催や導入支援・相談支援体制の構築を進め、地域全体での普及拡大を図ることが必要。

長崎県介護支援専門員協会 五島支部  
太田孝幸氏

# 【東彼杵町】「Wi-Fi」を「ウィーフィー」と読むほどのICT音痴でも、手厚いサポートで導入は可能です。



“ 私の所属事業所では普及促進モデル事業の協力依頼を受け、2025年の秋よりケアプー（ケアプランデータ連携システム）の導入を開始しました。

正直なところ、導入前はとても不安でした。理由としては、私は少し前まで「Wi-Fi」の読み方を「ウィーフィー」と勘違いしていたほどのICT音痴であり、周囲からは「ウィーフィー山下」と揶揄されていたからです。

そのような私でも、長崎県国保連合会やヘルプデスクサポートデスクのスタッフ様から親切にサポートして頂いたことで、導入から活用までなんとか行うことができました。”

正直なところ、現状では課題が多いシステムだと思います。だからこそ、多くの事業所から要望を届けて、さらに質の高いシステムにしていくことで、より活用の幅も広がっていくと期待しています。「ウィーフィーでもできる、ケアプー。ぜひ、ご活用ください。」

長崎県介護支援専門員協会  
東彼支部 山下友浩氏

# 【諫早市】ケアプランデータ連携システム普及への取り組みと成果

諫早市では、ケアプランデータ連携システムの普及促進に向けたモデル事業に取り組んでまいりました。参加事業所から、『月初の実績確認にかかる時間が大幅に減った』『紙の使用量が目に見えて削減された』など、業務効率化を実感する声が多く聞かれています。

導入当初は操作への不安や、ソフト間の連携に戸惑う場面もありましたが、各事業所が工夫を重ねながら運用を続けてきた結果、今では日常業務の一部として定着しつつあります。市内では導入事業所が54事業所まで増加しており、連携の輪は着実に広がっています。

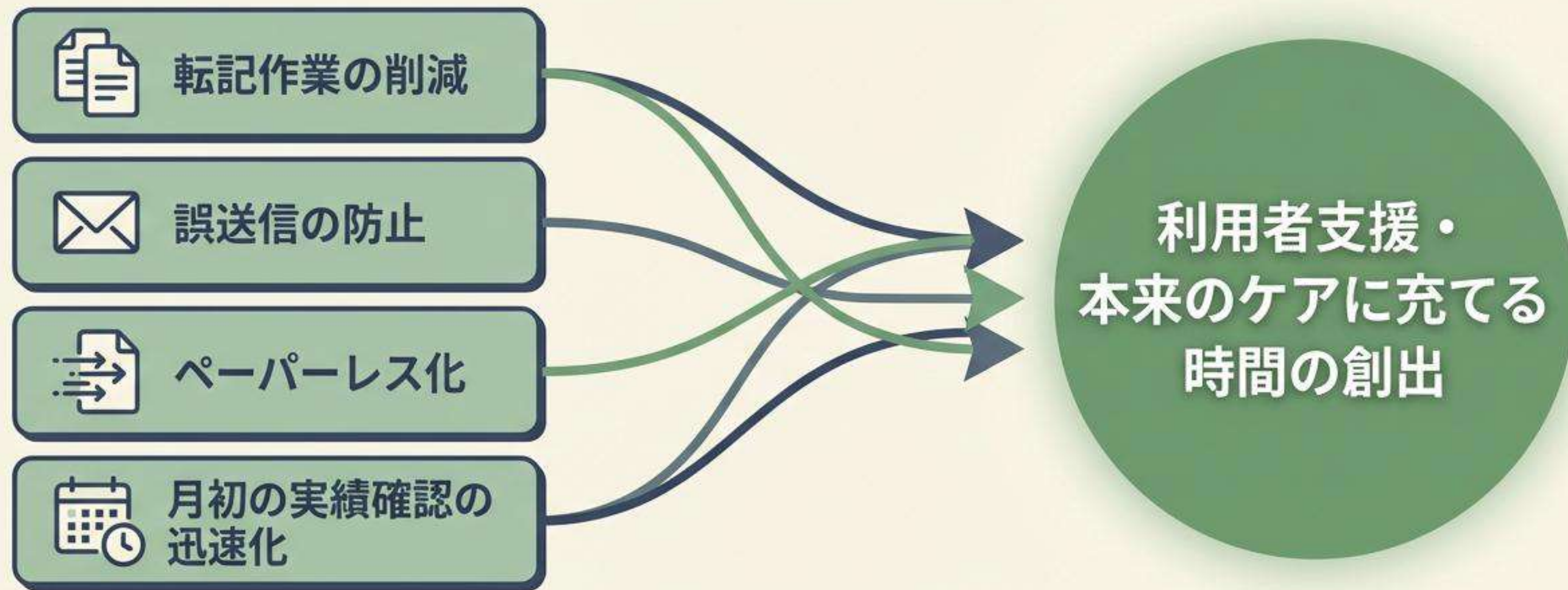
データ連携が進むことで、事業所間のやり取りがスピーディーになるだけでなく、介護人材の負担軽減や、本来のケアに集中できる環境づくりにもつながります。諫早市でのモデル事業の経験を通じて、ICT活用が現場を確実に変えていくことを実感しています。

地域全体での普及がさらに進むことで、長崎県の介護サービスの質向上に貢献できると確信しています。まだ導入していない事業所の皆さまにも、ぜひ一歩踏み出していきたいと思っております。



長崎県介護支援専門員協会 諫早支部 橋口英俊 氏

データ連携がもたらす最大の価値は、単なる経費削減ではなく  
「ケアに集中する環境」を作ることです。



ICT活用は現場の負担を軽減し、長崎県の介護サービスの質を底上げします。

# ソフトウェア間の相性や操作への不安といった導入の壁は、体験会や相談体制の活用で乗り越えられます。

## 【直面しやすい課題】

導入作業の負担、  
使用ソフト間の相性



小規模事業所の  
人的・時間的余裕の不足



操作に対する  
心理的不安



## 【解決へのアプローチ】

市別打合せでの  
課題共有と改善策協議



ケアプランデータ連携  
システム体験会の開催



ヘルプデスク・サポート  
デスクによる伴走支援



**地域の介護サービスの質を維持・向上させるために、  
まずはICT活用の第一歩を踏み出してみませんか。**



**「まだ導入していない事業所の皆さまにも、  
ぜひ一歩踏み出していただきたいと思います。」**

—— 諫早支部 橋口氏の言葉より

**令和8年度の「介護情報基盤」本格稼働に向け、地域全体での普及拡大が求められています。**

# 導入をスムーズに進めるためのマニュアルや 体験動画をご用意しています。



## マニュアル

長崎県介護支援専門員協会  
ホームページにケアプラン  
データ連携システム導入マ  
ニュアルを掲載しています。



## 操作体験動画

導入プロセスや実際の操作  
感を、視覚的にわかりやすく  
解説した動画をご覧ください  
ます。



## 実績報告会アーカイブ

3月14日の実績報告会の様  
子をYouTubeにて一定期  
間配信中です。

